

輝く女性に会いに行こう

企画 神奈川県

第2回

株式会社春峰園

私たちはつい、消防士は男性、看護師は女性など、職業について無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を持ってしまいがちです。この企画では女性が活躍する仕事現場を高校生の視点で取材し、男女誰もがイキイキと輝く社会をつくるためのヒントを探ります。
第2回目は、緑の専門家として造園や公園管理などを手掛ける株式会社春峰園。国勢調査によると、造園師における女性の割合は10%以下だとか。そんな業種に自ら飛び込んだ女性、春峰園の工事チーフ・加藤真歩さんを訪ねました。

Q なぜ春峰園さんを選んだのですか。

A 中学生の頃に職業ガイドブック「13歳のハローワーク」(村上龍著、幻冬舎)を読み、樹木医という仕事を知ったんです。樹木や緑で空間を演出したいと思って、高校や大学では農学を学びました。就職活動では東京と神奈川の造園会社を調べ、学んできたことを活かして働きたいと思って、春峰園にアタック。メールや面接でじっくりと意思疎通ができ、「ウエルカム感」があったので入社を決めました。
※樹木医：樹木専門の医者として、樹木の保護・育成・環境の改善などを行う専門家。7年間の業務経験と(社)日本緑化センターの認定が必要。

Q 春峰園さんでは、どのように働いているのですか。

A 8年間動めてきて、土壌検査や造園設計、施工現場の管理・監督などさまざまな業務を経験しました。今は主に、公園の指定管理者(公共施設の管理運営を民間事業者が担う制度)の応募や運営管理などの業務に携わっています。私が入社してから、さらに女性が2人も入社し、気持的にも助かっています。実は会社のユニホームが、私にはちよつと重かったんですが、軽くてストレッチ性のあるユニホームを提案したら採用してくれて、男性スタッフも動きやすくなったと喜んでくれています。
新旧のユニホームを着比べる高校生記者。「腕を動かすと軽さ、動きやすさが分かりますね」



新旧のユニホームを着比べる高校生記者。「腕を動かすと軽さ、動きやすさが分かりますね」

Q 今後のキャリアについてどう考えていますか。

A 今の目標は樹木医の資格取得です。当社初の樹木医になって仕事の幅を広げたいですね。この会社は、新しいことも自分から行動すれば、存分にやらせてもらえるので、会社とともに成長したいと思っています。

Q 今の仕事で性別による違いを感じますか。

A 作業現場では腕力・体力などフィジカルのは感じますが、差別は感じません。逆に公共の仕事をやる際には、女性の技術者がいる会社が受注しやすくなる制度もあるんです。仕事にあたらしさを生かすなら、あえて女性比率が低い業種に飛び込むという考え方もあるかもしれません。



業務の基本は、現場の監督や安全管理



春峰園の敷地内の緑道で「真夏の日差しも樹木があれば本当に涼しくなるとよ」

Q 男女の性差がない、働きやすい職場を作るにはどうすればいいと思いますか。

A 男性と女性には肉体的にも生理的にも異なるので、必ずしも同じに扱わなくていいと思っています。私の場合は、会社側が私を性差と同じように能力の個人差はあるので、その人の得意な能力を活かして活躍してほしいです。

Q 社会問題である「性差」をどうすれば打破できると考えていますか。また、なにが大事だと考えていますか。

A 家族でも社会でも、相互理解が大事だと思います。相互理解が助け合いつつ言うと、ちよつとカッコ良すぎるので、私は良い意味での貸し借りだと考えています。自分が得意な分野で貸しをします。作っておいで、自分にできない事は明るい感じでヘルプをお願いしちゃう(笑)。気持ちの貸し借りがオープンにできる関係だと、全体の業務効率がアップすると思います。

高校生記者の取材記

【取材・執筆】 福永文葉(県立光陵高校2年)

やりたいことをやり遂げようとする姿勢や、仕事の中で、「自分が役立っていることは何か」を考えているところがとてもカッコイイと思いました。私も社会の中で自分が役立っていることは何かを考え、実際に行動したいと思っています。

【同行取材】

林凛香(相模女子大高等部1年) 春峰園さんは、社員以外にもフィットネスジムを無料開放したり、ワークショップを開催したり、とてもユニークな印象を受けました。加藤さんが、男女が働く社会の中で「助け合い」ではなく、あえて「貸し借り」と表現されたことがハッとさせられました。だからこそ今のアウトホームな雰囲気があるのだと感じました。お話を聞きながら、私もここで働きたいと思うくらい羨ましい会社でした。



「樹名板づくり」などのイベントで樹木ファンの視野を広げる

仕事は、得意分野を生かして適材適所。能力差は、オープンな「貸し借り」で。



入社8年目の加藤真歩さん。「希望していた公園指定管理者の仕事ができて充実しています」